



第3号 2009年3月発行

発行者：宮古島市立教育研究所

所長 本村 幸雄

住所：〒906-0392

沖縄県宮古島市下地字上地 472-39

宮古島市下地庁舎3階

電話：0980-76-6400 F A X：0980-76-6154

<http://www3.city.miyakojima.lg.jp/kenkyusyo/>



教師に求められるもの

所長 本村 幸雄

本年度は、教育研究所の組織が改編され所員の役割も明確にされ、これまでより充実した感がある。

設立以来、教職員の研究や研修、「まていた教室」入室相談、教育相談等に深く関わり、本市教育のニーズに努めてまいりました。また、本年度は琉球大学教育学部連携事業として、浅井玲子琉大准教授による家庭科研修会、宮崎県都市立明道小学校石本隆士教諭による「通級指導教室における教科指導」というテーマでのご講演等、教師個々の能力や適性の伸張を図ることができました。

本教育研究所では、3月11日、平成20年度後期(5期)の研修成果報告会が行われました。設立して4年目を迎え、ハード面、ソフト面きびしい中での研修ではありましたが、6ヶ月という短い期間で成果を修めることが出来たことを嬉しく思い敬意を表したい。

格差拡大が声高に叫ばれる昨今であるが、生徒の前に立つ教師に格差があってはならない。そのためには、教師一人ひとりの日々の努力、ライフスタイルにあった研修が必要である。若い教師は生徒に年齢も近いし情熱もあるので人気もある。しかし、年を取るとそうはいかない。教師には年齢相応に資質力量が伴わないと生徒はついてこない。

幼稚園及び小中高校の正教員を「教諭」という。人間形成の途上にある幼児、児童、生徒を「教

え諭す」立場にある者、すなわち、「教諭」は、人格形成の途上にある子ども達を育成するという重責を担うことになる。大学や高等専門学校など教員は「教諭」ではない。「教授、准教授、講師」と呼ぶ。同じ学校の児童生徒を教える「教諭」と学生を教える「教員」とは、要求される資質も職責も違ってくる。「教諭」のほうが、児童生徒を道徳面でも感化するような人格者であることが要求される。そのためにも教育研究所での研修は、大変意義がある。教師の資質として絶対必要なものは、児童生徒への「愛情と情熱」それから、教師としての「使命感」と「実践的指導力」である。この資質に欠けた教師は、教壇に立つべきではない。真の教育改革とは「教師改革」である。

本教育研究所は、市立教育研究所として何ができるか、地域社会の学校や教師のニーズを的確に把握し、学校現場と密着した各種研修の充実を図っていくことが任務であると考えます。

==== もくじ ====

- 教師に求められるもの -1-
- 長期研修を終えて -2-
- 教育相談室より -3-
- 「まていた教室」での学び -3-
- 研修会だより -4-

長期研修を終えて



第4期 南小学校
教諭 福原 理恵子

第4期研究生として、6ヶ月間、多くの先生方の指導を受けながら、研修を終えることが出来ました。教職についてから、16年目になりますが、自分の専門教科を深く学べる機会に恵まれ、こうしてじっくりと、自分自身の課題に向けて取り組むことが出来たことに心から感謝しています。

今回の研究は、音楽の中でも、合唱指導を通して、「生き生きと歌う児童の育成」を目指し、一人一人に歌いたいという意欲を持たせる工夫と声の重なり合いを味わいながら学び合いが実現できる合唱指導の工夫を実践的に進めてまいりました。その中で、発声指導や学習の場の工夫、曲想表現の練

り合いを通じた表現の工夫などを通して多くの成果を得ることが出来ました。また、今回の研究を通して、教科の技能面だけでなく、改めて言語活動の充実やコミュニケーション能力の育成の大切さに気付かされ、音楽は、心の教育に深く関わりのある教科であることを確認することができました。さらに、これからの教師生活の中で、音楽を通して子ども達にどのようなことを伝えていきたいのかということをも改めて考えることもできました。

長期研修の中では、現場を離れて諸先輩方から貴重な助言を頂きながら、じっくりと専門的な知識も得たり、教師としての資質を向上させるため、多くの講話を頂きながら、充実した研修を過ごすことが出来ました。

この長期研修で培った経験を生かし、様々な音楽教育を通して子ども達の豊かな心の育成にこれからも頑張っていきたいと思います。



第5期 北中学校
教諭 友利 尚子

「生徒一人一人の心は豊かで、その感性は光る原石のようである。」これが、この6ヶ月の研究を実践検証してきた感想です。

鑑賞活動というのは、美術教師として、先人たちの芸術活動の軌跡を生徒に伝えることだと思います。芸術の幅は広く、奥深く、様々な種類やそれぞれの違った背景（国、歴史）や技法の作品があります。一つの作品に込められた作者のメッセージや歴史的背景や表現への葛藤など、様々なことを生徒自身の素直な目と心を大切にしながら感じ取らせてきました。一人一人が感じ取ったことに間違いはないことを伝え、鑑賞することに自信を持たせることができたと思います。また、グループ鑑賞では、コミュニケーションを深めることで、

自己効力感を得させ、他者理解、作品理解へと繋げられました。

「鑑賞は楽しい」「もっと知りたい」という生徒の意欲を知り、一人一人の感性や豊かな心を育成していくことが、教師の責務であると改めて考えさせられました。

現場で普段取り組めなかった「鑑賞活動」に時間をかけ、深く研究できたことは、教師としてとても意義深い経験になりました。また、長期研修の中では、多くの先生方からの指導助言や諸先輩方からは温かい支援も頂き、学ぶことが多くありました。本当に充実した研究でした。

これからは、現場において、この研究で得たことを生かしながら、生徒一人一人の美術への学びを深める手立てを工夫し、美術の表現活動や鑑賞活動の中で、生徒一人一人の感性や豊かな心を育てていきたいと思っています。

教育相談室より

多発する事件・事故、少年犯罪や携帯電話を介したネット犯罪など社会の環境の変化が児童生徒に大きな影響を与え課題となっています。その多様化、深刻化しているさまざまな諸問題について相談する窓口として宮古島市教育相談室も設置されています。

宮古島市教育相談室では、児童生徒の健全育成の支援にかかわる必要な事項について相談を受け、児童生徒・教師・保護者のもつさまざまな悩み解決の支援を行っています。相談方法としては、来所相談、電話相談、訪問相談の3通りです。

主な相談内容としては、友人関係・いじめ・不登校・非行・怠学・部活動・異性問題・家庭教育などについて話し合い問題を明らかにして、今、何ができるのか一緒に考えたり、子どもへの対応の仕方等、多岐にわたって話し合っています。

今年度も、学校訪問相談、家庭訪問相談、宮古島市立適応指導教室「まていだ教室」との連携、各機関との連携、児童生徒、父母への継続的な相談・支援を行ってきました。

子ども達が、相談室を訪問したときは、一人一人の子どもの悩みや不安に耳を傾け、受け止めながら癒していくように心してコミュニケーションを図ったり、遊びを通して心理的な援助も行ってきました。自分の課題は何か、自己

を表現できない子どももいましたが継続的なかわりの中で課題が分かり支援するケースもありました。また、問題解決に向けた支援目標を設定してもうまくいかないうえとうまくいケースがあり一喜一憂でした。問題行動の状況や背景には子ども達が置かれている環境の問題が複雑に絡み合っているケースが多々あります。相談員は相手が気軽に何でも話せる雰囲気づくりに努め、ごく自然体で時間をかけて信頼関係の構築を図りながら支援してきました。

これらの働きを通して、今後も継続的支援が必要な子どももいますし、支援することでよい方向に変容を示した子どももいます。また、宮古島市立適応指導教室「まていだ教室」との連携でよき変容に向かった子どももいて関係機関との連携の大切さを実感しました。子ども達は、認められたい・よくなりたい願望があります。学校生活や家庭生活、友人関係など、さまざまな環境において子ども達のサインに早急に気づき早めに支援することの必要性を感じます。

成長・発達上での課題や何らかの問題・悩みをもつ子ども達が自分に気づき、プラス思考で自らの内にある力で動き出すその日まで焦らずにゆっくりと、心温かく長い目で見守りたいと思います。子ども達の健やかな成長・可能性・自立を信じて・・・。

教育相談員 … 垣花征一 普天間裕 砂川和子 久貝清順

「まていだ教室」での学び

登校しづり、不登校等が全国的に年々増加する傾向にある中、宮古島市においても平成19年度は39人の不登校児童生徒が報告されています。

これまで中学校現場で学級担任として勤務してきた私は、何度か不登校生徒を受け持ち、様々な悩みや問題に向き合いながら支援してきました。そのため、不登校生徒への関わり方や支援の仕方を学びたいと思い、自分に勤まるのだろうかという不安に駆られながらも適応指導教室での研修を希望し、昨年4月に「まていだ教室」に赴任しました。

継続児童1人と10月から2人の児童の入室があり、今年度は3人の児童生徒と関わりましたが、この1年、試行錯誤の毎日でした。学校現場とは違う忙しさに戸惑いながらも、心落ち着く職場の環境と所長をはじめ職員との素晴らしいチームワークが何よりの励みでした。毎日、不登校生徒と関わる中で母親との信頼関係を深め、家庭と共に焦らず、慌てず、あきらめずに不登校生徒にじっくりと向き合っていくことの大切さに、気づかされています。

また、不登校生徒を支援する上で、特にチャレンジ登校に向かうためには、学校との連携は不可欠です。子供をよく理解し、学校や担任との信頼関係を築き、支援の仕方を統一して進めることはとても重要なことです。幸いにも校長先生をはじめ、先生方の温かい対応や深い理解と協力を得て、私がクラスの子供たちと交流できたことは不登校生徒をチャレンジ登校に導きやすい状態にしてくれました。担任の先生は時間割の変更を快く行ってくれたり、私や指導員に教室での学習支援や出前授業を実践させてくれたことで、子供がスムー

ズに教室に入れるようになっていきました。また、忘れてはならないのが前任者のアドバイス、相談員やSSWの励ましと研究所の先生方の助言が、私を含め不登校生徒の心をサポートしてくれたことです。

このように、不登校生徒を支援するためには、あらゆる角度からのよりよい連携が大切であることを実感しています。不登校生徒を巡って多くの出会いがあり、たくさんの方々に支えられ、連携を深めてよりよい方向に進められたことに心から感謝しています。更に、子供自身が自分の力で気持ちを切り替え、いろんなことにチャレンジできるようになったことは大きな喜びであり、子供の持つ偉大な力を発見することができました。

心の教育が叫ばれている教育現場において今回、適応指導に携わり、自分を省みることが数多くありました。連携とは役割分担を明確にして心と心でつなぐものであり、みんなの心を合わせ、心を込めて個に応じた指導を実践することが教育の原点であることを改めて学んでいます。

いつか研修会でお会いした石本先生が「心因性の不登校生徒は、連携の仕方によって必ず学校復帰できます。」と力強く話しておられた言葉を励みに、また明日からの教育実践に取り組みでいきたいと思っています。

「焦らず」「慌てず」「あきらめずに」を心に留めて・・・

指導教諭 宮国 貴子
指導員 松本美智子
指導員 上地 千鶴

琉球大学教育学部との連携事業

昨年度から、宮古島市教育委員会と琉球大学教育学部との連携事業で、大学の先生方による研修会や出前授業が開催されています。希望があれば、研究所の方で調整しますので、気軽に声をかけてください。

① 家庭科研修会

11月14日 下地庁舎1F

浅井玲子准教授を迎えて、家庭科研修会を行いました。他の研修会と重なったため、免許外で家庭科を担当している先生方の参加が無かったのが残念ですが、浅井研究室の学生も3人参加してくださり、少人数ながら、とても楽しい有意義な研修会でした。

【内容】

- ①生活を科学するということ
- ②幼児とのふれあいとかかわり方の工夫
- ③沖縄の中学生と高齢者に関する学習



② 特別支援教育研修会（通級指導）

12月19日 下地庁舎1F

緒方教授の紹介で、都城市立明道小学校の石本先生をお招きして、通級指導教室の実際について研修会を開催しました。石本先生の実践をもとに分かりやすく説明していただきました。それぞれの学校での指導に役立つことがたくさん見付けられたのではないのでしょうか。

【内容】

「通級指導教室における教科の指導」

- －実態把握の工夫
- －見方や考え方
- －感情の調整
- －自己評価 ー感じ方
- －様々な技術
- －周囲との関係調整
- －家族との連携や支援



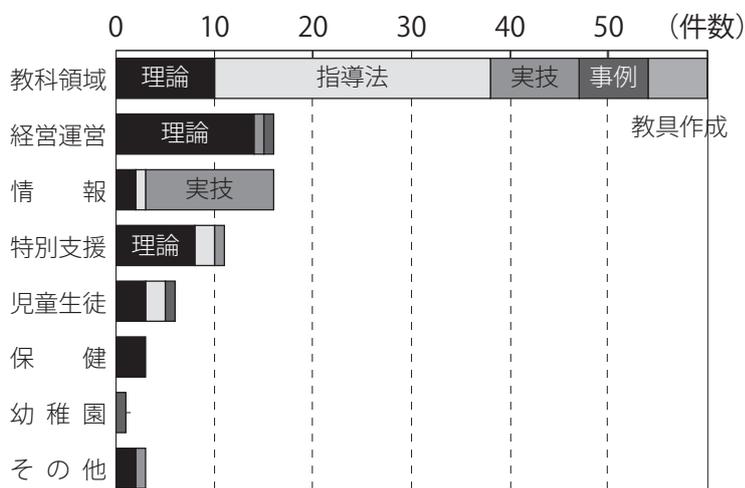
研修会の希望調査結果

初任研、10年研、校内研修の充実、さらには、教員免許更新制も始まることになり、研修の機会が増えている。そんな中、現場の研修のニーズにあった研修会を企画するため、2009年1月に市立小中学校の全職員を対象に、当研究所の研修会への希望調査を行った。忙しい業務の中、111人の職員から、延べ131件の回答が寄せられた。

一番多かったのは、4月から始まる小学校の外国語活動を含む教科等の指導法であった。次に、学校経営・運営の理論研修、情報関連の実技研修となった。学校経営・運営には、新学習指導要領関連が多く、情報の実技は、コンピュータ操作、特にホームページの作成・更新であった。

複数見られる回答は、現在の教育の課題に沿った、特別支援教育、家庭学習、算数の教具づくり、また常に必要とされている音楽・図工・体育等の実技等である。当研究所ならではの研修会として、宮古島の歴史・文化についての現地踏査を含む研修会や宮古の先輩方を講師とした研修会、みんなで事例を持ち寄った研修会等の希望がみられた。

○希望する領域と内容



希望する時期は、圧倒的に夏期休業中だが、1学期の希望も多い。

この希望調査の結果を踏まえ、県立総合教育センターの短期研修講座と重ならないように、宮古教育事務所・宮古島市教育委員会学校教育課と連携して、学校現場のニーズにあった研修を企画していきたい。

(調査のご協力に感謝いたします。)